

石川県立大学運営諮問会議

日時：平成 20 年 8 月 5 日 14:00-16:40

場所：本学 大会議室 (K116)

運営諮問会議委員

林 勇二郎 (前金沢大学長)
祖 田 修 (福井県立大学長)
中島 恭一 (富山国際大学教授・前富山県立大学長)
森 敏 (前大学評価・学位授与機構教授)
山下 一生 (石川県高等学校長会長・金沢泉ヶ丘高校長)
井口 静弘 (石川県農業協同組合中央会専務)
小林 善隆 (石川県土地改良事業団体連合会専務理事)
佃 一成 (社団法人石川県食品協会会長・佃食品代表取締役社長)

(司会者)

それでは定刻になりましたので、只今から石川県立大学運営諮問会議を開催いたします。開会に先だちまして、丸山学長よりご挨拶申し上げます。

(丸山学長)

皆様、本日は大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。運営諮問会議につきましては、学則で学長の諮問により先生方の御意見を伺って大学の運営に反映させていただく。そういうことが決めてございまして、何年かに1回は開かなければいけない。本学が平成17年に開学以来初めての開催となります。本学は後からも申し上げますが、大変小さい大学でありまして全学生数519名、3学科でございますが、我々としては、開学以来一生懸命がんばって、やっと此処まで来たというところです。

どうか今日は委員の先生方、辛口の意見で結構でございますので、ご指摘いただきまして、よりよい大学になりますようご助言賜りますと大変有り難い。どうかひとつよろしくお願いいたします。

議題1 委員長の選任について

(司会者)

司会者より、本会議の委員の紹介があった。

引き続き、本会議の委員長の選任については規程により委員の互選による旨、説明があり推薦者を募ったところ、祖田委員より林委員を推薦する旨の発言があった。

他に推薦者はなく、各委員からの異議もなく、林委員の委員長就任が承認された。以後、林委員長により議事進行が行われることとなった。

(林委員長)

林委員長より、委員長就任の挨拶があった。

また、議事進行については、始めに大学からの概要説明を聞いた上で、その後、各委員から、ご意見・ご質問をいただき、それに対して大学側が回答するという形式で進めることとなった。

議題2 石川県立大学の概要について

(丸山学長)

丸山学長より、石川県立大学の概要について、資料に基づき説明があった。

最後に、本学からのお願いとして2点、本日の会議内容はテープ録音をさせていただくこと、及び会議終了後、後日委員からは答申書を1枚程記載の上提出いただくことで、御了承いただいた。

議題3 教育研究活動、地域貢献、大学の自己評価等について

(高橋教授)

高橋自己点検・評価委員長より、石川県立大学自己評価書の概要について、資料に基づき説明があった。

(松野教授)

松野企画調整委員会副委員長より、本学の教育研究に関わる取組状況の概要及び7つのFD活動(教育者表彰、研究者表彰、全学セミナー、学科等セミナー、授業参観、教育研究の計画・実績・発表、プロジェクト研究)等について、資料等に基づき説明があった。

(内藤局長)

内藤事務局長より、本学の独立行政法人化の基本方針及び進捗状況等について、資料に基づき説明があった。

(林委員長)

以上で大学側からの説明を終わります。この後いろいろな御意見をいただきたいと思いますが、その前に、今の説明を受けて不明な点などがございましたら、ご質問いただければと思います。

委員意見聴取

(祖田委員)

入試状況(倍率等)については、どのような状況か。

(丸山学長)

本学の概要P2入学状況(資料)に基づき回答があった。

(小林委員)

来春、初の卒業生を送り出す訳だが就職見込み状況は如何か。

(矢野学生部長)

今年の進路状況ですが、2割程度が大学院、1割が公務員、あとの7割が就職です。就職先は、生産科学科はJAなどの農業関係、環境科学科は土木、情報、或いはコンサルタント関係、食品科学科は食品関係や薬品会社と、ほぼ100パーセントで、残る1～2名以外は就職又は進学が内定している状況です。

(中島委員)

生物資源工学研究所に12名の教員がいるが、研究費は別途措置されているのか、また教育負担はあるか。

(熊谷教授・生物資源工学研究所長)

学部教員と同じ教育研究費のほかに各研究室に別途研究費をいただいている。(240万円/室あたり)教育負担は学部教員と変わらないくらいにあります。

(井口委員)

1.法人化の経緯について、2.財務・運営交付金の状況について、3.奥能登の活性化問題について、それぞれ伺います。

(内藤局長)

1について、特に課題がないわけではないのですが、基本的に法人化というものが時代の潮流になっていると言うか、県の傘下では機動的に動けない。予算の執行についてもいちいち財政当局に相談しなければならない事などありまして、より経営的な発想から法人化に踏み切ってはどうかというような経緯が先ずございました。それから、2の財源の話がございましたが、交付金というのは県からの運営交付金でありまして、それ以外は他大学も同様かと思いますが、外部資金の獲得に努力しなさいということが基本的な考え方であろうかと思えます。その他、基本的な運営につきましては県は財源を担保するという考え方かと思えます。

(高橋教授)

3は本学の全学プロジェクトにおいて「能登の活性化」を研究テーマとしており、県の地域振興課予算でも「大学地域連携事業費」がついたことから、県や関係部局等との連携・協力をいただきながら進めているところでございます。

(森 委員)

外部資金が約1億円あるが、オーバーヘッドの設定はどのようにしているか。学長裁量経費は外部資金か、県の経費か。それらの研究成果は県にフィードバックされているか。

(丸山学長・内藤局長)

科研費の場合3割が間接経費、他の外部資金については、その種類によって違うので他大学の状況等を参考に今後検討します。経理上、直接経費以外は県の歳入歳出予算に組み込まれ、最終的には本学にフィードバックされます。

(森 委員)

分かりました。研究者は安心すると思います。

(林委員長)

余談ではあるが、JST(科学技術振興機構)の間接経費は30%になりつつある。間接経費は法人化後の大学運営にかかる重要な資金源と考えるべきである。

(佃 委員)

1. 県外・県内の就職見込み率はどうか、2. 大学院設置後の教員補充はあるか。特に若手教員(助教)が少ないのではないか。

(矢野学生部長)

1について、H21の状況は、県外5割、県内5割です。県内の学生は就職希望者が少し多い。県外の学生は県外に戻り就職する傾向にあるが、一部は石川県内に就職を決めている。

(丸山学長)

2の教員の定員増は県予算との関係もあり難しい状況であるが、今後はティーチングアシスタント(TA)や外部資金を活用したポスドクの受入等、検討する必要があります。

また、ドクターの就職先は、昨今、非常に難しい状況にあり、大学院のドクターコースには社会人の修士の学位取得者や外国人を主に受け入れたい。

大学院設置後の教員数ですが、いまのところ増えません。基準の教員数は確保しています。

意見交換

(林委員長)

大学院の学生確保について、学生アンケートも実施されてるようではあるが、文科省大学設置室・設置審の認可が下りてない中で、どのようにする考えか。

(松野教授)

本年5月30日に認可申請書を提出し、今週末にも文科省において意見伝達があります。学生募集については、確定的なことを言うてはいけませんが、設置認可申請中である旨を明記すれば、公示も可能であるとの文科省の見解です。

(森 委員)

自己評価書等を拝見させていただいたが、教養教育に係る人文社会系は非常勤講師で対応しているが弱いように思う。常勤教員は必要ないか。

(金子教授・教養教育センター長)

私自身も同様の考えはあるが、主として金沢大学を中心として、非常勤講師に講義をお願いしている。

(森 委員)

また、学生のカウンセリング体制についても弱いように思う。常勤職員は必要ないか。

(金子教授・教養教育センター長)

先生ご指摘のとおり、いかに小規模とはいえ、学生はいろいろな問題を抱えていますから、カウンセリングは必要と思うが、今のところ専属職員はいない。

(中島委員)元・富山県立大学学長

教養教育については富山県立大学も同様でした。人文社会系の教員が少ないのは公立大学の大きな悩みですが、最近は大学間の連携ということで、石川県の場合、コンソーシアム石川が機能しているようですから、その活用などは効果的かと思う。小規模大学では、どうしても教員の定員は限られていますから、そういうことを思いました。

(林委員長)

公立大で言いますと、県立大以外にも金沢美術工芸大学等、やはり、どこも教養教育の教員は不足している。県内19の大学が協力し、コンソーシアムを運営することは、単なる単位の互換をする、受講するだけでなく、いろいろな専門の学生が集まって別のキャンパスを作り上げる。そういったことが教養の原点じゃないか。夏休みに集中的に実施することで距離的問題は克服できるだろう。

高校教育における教養教育も重要であり、スーパーサイエンスハイスクール校として採択された泉丘高等学校の山下校長より、高校側の立場から教養という観点と大学について、一言いただきたい。

(山下委員)

先ず、石川県立大学には高大連携ということで、大変お世話になっていることに對し、深く感謝申し上げます。

丸山学長などの想いをお聞きし、気になったことは、オーバードクターについてですが、泉ヶ丘高校からも大学院を目指す学生は少なからずいるのだが、修了してもその次がない。残念に思います。特に女子なら県内に残したいのも親心、基礎学力は確かに財産でしょう。また概要 P2 学生数・教員数について、県内者の割合はどうなっているか。

(丸山学長)

説明が舌足らずですみませんでした。大学院ドクターの学生の件ですが、マスターコースとドクターコースを同時設置ということで立ち上げを早めましたが、大学設置審は学生確保を懸念するものですから、県の試験研究機関の研究者等に対して、アンケート調査を行い、ドクターコース入学の意志の有無を把握した次第です。

従いまして学部から2年でマスターコースを終了し、ドクターコースに進学を希望する学生は、大歓迎であります。問題はそれまでの繋ぎをどうするかという意味です。ドクターの就職先の件は、東大であれ京大であれ共通する問題です。

学生は県内県外の割合は半々です。

(谷口教授)

石川出身教員の件ですが、私は食品科学科長の谷口と申します。泉丘高校の第10期生です。マスターは別として、ドクターの就職先については、近年は日本全国、非常に厳しい状況であると思います。

(内藤局長)

補足させていただきます。学生519名のうち、250名が県内から、教員66名中、16名が石川県所縁の先生です。以上です。

(祖田委員)

先程から教養教育が弱いのではとの事ですが、専門の方は大変充実していると思います。これからは外国人や留学生も入れた国際的な教育や農業経済、一般教育としての国際関係なども取り入れた教育を広げるような努力をしていただけたらと思う次第です。

次に、これもお金のかかる話なのですが、蔵書冊数が4万数千冊ということで、若干少ないように思われるので図書の実充が必要かと思いました。

また、甘く育った学生と厳しい社会のギャップを埋めていくような教育が必要かと、遅い学生を育てるため、クラブ活動、ボランティア、インターンシップ等に力を入れてはどうか。

福井県立大の場合、今年4月に学生相談室を設置したところ相談数が急増、学生の不安が多いということでしょうか。

地域貢献は、県立大としての責務の1つではありますが、「能登の活性化」等々、よく頑張っておられるように思いました。

それから、法人化する場合について、出来れば理事長・学長は一致型が良いかと思われま。公立大学は一般的に小さな大学ですから、全国的な傾向を見ても一致型が多いのかと思われま。任期制・年俸制の導入は慎重に行う必要があるかと思われま。

(林委員長)

佃委員は、この後、ご都合で退席されますが、最後に一言お願いいたします。

(佃 委員)

食品産業でも採用している学生は概ね専門的なことには強いが、常識的かというか人文的かというか、一般常識に欠ける場合がある。また商品開発・包装に関して芸術性というものは食品業界では重要な要素であります。県立大の将来とモチベーションをしっかり持った優秀な生徒の排出に期待しています。

(林委員長)

石川県の公立大学ということで、地域貢献といいますが、教養教育の話もありましたが、魅力的な大学づくりに向けて何かございますか。

(森 委員)

社会貢献はインターンシップがベスト、単位制にすべきだと思う。ボランティア活動も同様、e-ラーニングは良いと思う。

(中島委員)

企業が抱える問題を大学の教育・研究に取り入れてはどうか。

(矢野教授)

インターンシップの単位制についての御意見が出ましたが、本学は既に単位制を引いています。

(林委員長)

石川県立大学のベースは、「生産」「食品」「環境」いいところ取りなんですね。こんな大学はあまりないと思う。

法人化、大学院開設と、今が新しい方向性を出す時だと思います。

(森 委員)

私も全国いろいろな大学を評価したが、この大学が取り組んでいる「教員相互の授業参観」は評価する。(参加者が少ないことは残念ではあるが)下手な授業が上手くなっているかもしれない。

(林委員長)

いろいろ御意見をいただきましたが、最後に1人ずつ、県立大学に対する想いなどをご発言いただきたい。

(小林委員)

法人化は1法人2大学とのことですが、事務局はやりにくくないですか。

(内藤局長)

例えば、看護大に教務だけが残るようなことになった場合など、今後の検討課題となります。

(井口委員)

H21の卒業生を採用させていただきます。

(山下委員)

ふるさとに貢献しようという意欲のある子供たちを育て、魅力ある企業・製品開発により、石川の産業の活性化を図る。他と違った魅力ある大学にしていっていただければ我々、高校側としても嬉しい。

(中島委員)

学力低下、全入時代、昔の大学は入難出易だったが、富山県の大学は既に「全入」です。47%が定員割れの状況です。高校でしっかり学力を付けることと高校・大学の連携が大切かと思えます。

それから、PCの台数が少ないようですが、これからの時代、PCの必携化を図ってはどうか。

また、富山県立大学の法人化については、小規模大学の場合のメリットは少ないということで、現在の段階では未定です。

(祖田委員)

特にありません。

(森 委員)

教員の年齢構成が歪であるということだけは言っておきたい。将来を危惧します。

(林委員長)

大学院4年+2年又は4年+2年+3年、法人化と明確な将来像は出ている。学長裁量経費をどう使うか、外部資金の調達、JSTへの挑戦などが問題か。

(丸山学長)

3時間近くに渡り、熱心な議論をいただきありがとうございました。

地域貢献の重要性、i-BIRDの活用、教養教育の問題も確かに弱く、金沢大学さんにはお世話になっています。

我が大学のセールスポイントは、バイオと環境ということで、エースを揃えております。そういうことで、山下先生、県内の高校からもどんどん学生を送っていただきますようお願いいたします。

大学コンソーシアムの更なる利用促進が必要か。法人化も厳しいが頑張りたいと思います。

(司会者)

それでは以上をもちまして、石川県立大学運営諮問会議を終了いたします。